

みんなで希望をつむぐ 希望をひらく 伊野の将来ビジョン

みんなで支え合い未来へつなぐ活力あるまちづくり

み ら  
や っ て 未 来 こ い !  
ENO暮らし 2030



大好きなこの場所で  
大好きな人と暮らしたい  
海と山と宍道湖の  
この伊野で暮らしたい  
さあ！一緒に始めよう！  
さあ！一緒にふみだそう！



美しい自然にかこまれた伊野小学校



宍道湖のしじみ漁



日本海に沈む夕日



春の十膳山頂上

## 伊野ってどういうまち？

出雲市の東端にあり、松江市と接しています。北の日本海から南の宍道湖までつらぬく南北に細長い地域です。日本海岸ではハマチやイカなどの魚介類、まん中の里山では味ばつぐんの米やシイタケなどの農産物、宍道湖岸ではシジミやウナギなどの宍道湖七珍を生みだす食材の宝庫です。

人口減少・少子高齢化の波がおしよせてきたこのまちで、私たちはまちの将来を考えて活発な活動を続けています。2019年、「伊野の未来をつくる戦略会議」を立ち上げ、何度も何度も話し合いを重ねてできあがったのがこのビジョン(未来像)です。

## 今あるたくさんの問題。このままにすると10年後の伊野は…

10年前、伊野地区の人口は約1,500人。今年は、約1,250人。10年後には1,000人を切り、20年後には700人台にまで減る可能性があります。

すでに、「運動会に選手を出せない」「役員のなり手がいない」、といった悲鳴が集落からあがっています。農業や漁業の担い手不足も深刻です。

このままだと、集落や伊野地区全体の機能が麻痺してしまいます。でも、まだ間に合います。みんなで未来を考えよう、私にできることは何だろう？と考える動きがどんどん広がっているからです。



## 伊野の10年後、20年後を考えて

お年寄りの買い物や通院はどうすればいい？災害に強いまちをつくるためには？いっぱいある課題に挑戦するためのキャッチフレーズが「やって未来こい！ ENO暮らし2030」です。笑顔と縁(E)を大事にするまち、のんびり(N)とぜいたくな田舎暮らし、おたがいさま(O)で困りごとを解決できるまちをつくり、伊野は「いいの～(ENO)」と感じられるようにしたいのです。そのために、地区住民だけでなく地区外の応援団(関係人口)も含めて2030人の人びとで2030年までに新しい伊野コミュニティをつくりあげたいのです。

### 2017年活動

まちづくりを考える動画完成



### 2018年活動

集落ごとに話し合い



### 2019年活動

まちの将来を考える戦略会議



## 伊野の未来を創る戦略会議

「伊野の未来を創る戦略会議」では7つの部会に分かれ、伊野が今どんな現状かを考え、将来、伊野がより住みやすいまちになるためにはどうすればよいか話し合ってきました。

このパンフレットでは各部会が考える伊野の今ある問題や困ったこと、今後の目標などをまとめました。10年後も20年後も私たちが安全・安心で楽しく暮らしていけるように、一人ひとりがこの町のことを考えていきましょう。



教育

子育てするなら伊野で。地域みんなで子育てを支え、子どもから大人まで楽しく学びのある伊野暮らしをめざします。

→ P5



農業・水産業

農業・漁業の未来を考える私たちは、特に後継者問題を考える部会です。地域産業のある魅力ある田舎暮らしを提案していきたいです。

→ P6



福祉・医療・暮らし

住民の誰もが伊野で幸せに暮らし続けるために、福祉・医療・暮らしをいかに確保するか、10年後を見すえて考えています。

→ P7



安全・安心

「安全な環境で安心して暮らせる伊野」をめざして活動しています！部会は各町内の防災のプロ（消防関係者）と交通安全のプロで構成！

→ P8



交流

「みんなで伊野の未来をつくる!!」。そんなみんなをつなげるために、私たち交流部会はアクションをおこしたいと考えています。

→ P9



情報発信

伊野地区の住民も、そうでない人も、伊野の様々な情報を簡単に入手、共有、発信できる仕組みづくりに取り組んでいます。

→ P10



学生

学生5人が主体となり、伊野の若者の現状を踏まえて子どもや若者がもっと地域に関われる方法を提案します。

→ P11

## 教育部会

ライフステージに応じた学びで、人生イキイキ！  
先生は地域の住民一人ひとりです。  
大人も子どもも、伊野で楽しく遊ぼう！学ぼう！



## 伊野で人生を遊ぼう～子育てするなら伊野で～

### 伊野のいま

伊野小学校では、ふるさと教育の充実や地域・学校連携により「小さな学校の大きな魅力」をめざして様々な活動が展開され、注目を集めています。しかし、今後児童数が大きく減少することが予想されます。児童数が減れば伊野小学校や伊野児童館の存続も危うくなります。

### 将来、伊野がより住みやすいまちになるために…

「子育てするなら伊野で！」と20～30代の女性・夫婦がやってくる町になれば、持続可能な伊野に道が開けるでしょう。海も山も湖もある魅力いっぱいの伊野。この自然豊かな伊野を舞台に、遊んで育つことができる環境整備が必要です。伊野暮らしは楽しいと感じる町をめざしましょう。



### 子どもも大人も遊ぼう

遊び場・生き物マップをつくろう。たこあげやお手玉など昔の遊びを楽しもう。

### 小さな学校の大きな魅力をつくる

小さな学校だからできる深い学び、他地域や世界とつながる学びをみんなでつくろう。他地域の子どもの伊野留学や伊野小児童の海外留学も実現できるといいですね。

### 子どもの社会参加を応援

子どもは地域の一員。子どもの声をきき、子どもの出番を用意しましょう。地域行事などに主体的にかかわれるようにサポートしましょう。

### 仕事と子育ての両立のお手伝い

地域で仕事と子育ての両立のお手伝い。子育てを地域みんなで支えましょう。森と海の幼稚園ができれば移住にもつながっていくでしょう。

！ 夕方6時または7時まで小学生を預かる体制をつくります

！ 教育情報がすぐ手に入るSNSの情報ネットワークを整備します

### 人生最期まで遊びたい、知りたい

子どもだけではなく、大人も学べる伊野にしましょう。郷土料理、健康、歴史、終活…、学びたいことはいっぱい。地域に先生もいっぱい。

！ ライフステージや性別に応じた学びの要求にこたえるプログラムをつくります



## 楽しむ農業・漁業で笑顔あふれる地域づくり

### 伊野のいま

伊野は宍道湖から日本海まで広がる変化に富んだ土地で、豊富な食材に恵まれている一方、深刻な後継者不足に悩む漁師や農業者がたくさんいます。美しい田園と里山、雄大な光景が広がる水辺。ホタルが乱舞する伊野にはたくさんの生き物が生息しています。今ある産業と景観、生態系を守っていかねばいけません。

### 将来、伊野がより住みやすいまちになるために…

まずは、やりがい・生きがいを感じて田舎暮らしを楽しくすることからはじめていきましょう。

## 伊野の食材を売る場所

おいしい食卓は家族の幸せと健康のみなもとです。生産者の喜びと消費者の喜びをつなげる施設ができることを希望します。

！ つくった野菜、とった魚介類を販売できる場所と仕組みをつくる  
豊富な食材を生産者が持ち寄り、生産者と消費者をつなぐ拠点をつくりましょう

！ お年寄りから子どもまで幅広い世代の人と交流し、伝統食文化の継承を  
たくさんの地域の人と交流し、地域の大切な伝統を受け継いでいきましょう。

## 加工場をつくる

伊野の豊富な食材をむだなく活用し、たくさんの人に美味しい食材を届けることで、生産者のやりがいが増すでしょう。  
また、今ある伊野の特産品をたくさんの人に知ってもらいたい。さらに、伊野にしかない特産品をさがしましょう、つくりましょう。

！ つくった野菜、とった魚介類を加工（保存）できる加工場をつくり、販売する

！ おいしい伊野のお米をプレミアム商品にする

## 環境を守る草刈隊

美しい景観と生態系。そんな伊野の環境を守っていくため、まずはじめに草刈隊をつくってはどうか。  
農地や山林の荒廃をこのまま見過ごすことなく、できることから始めましょう。草刈を通して交流を深め、農業と環境問題に目を向けていきましょう。

## 子どもからお年寄りまで住みやすく笑顔で暮らせるまちづくり

### 伊野のいま

今後、高齢化率が40%まで上がると予想されています。  
高齢者とその家族の困りごとや緊急時に対応できる助けあいのしくみをつくっていかねばなりません。障がい者や患者・家族などに対する支援策も欠かせません。

### 将来、伊野がより住みやすいまちになるために…

もしもの時のため、日常生活を支える交通面を整備したいですね。そのうえで、保健・医療・介護を充実し、住民同士がお互いに支え合い、一人ひとりが幸せに、安心して暮らせる地域社会をみんなで作っていきましょう。

## 困りごとにこたえるボランティア

人口が減り高齢化が進むと、支え合いの関係がどんどん弱くなります。  
「蛍光灯をかえてほしい」「お墓のそうじをしてほしい」。  
こんな困りごとや願いごとにこたえる有料のボランティア組織をつくりまします。

## 健康が一番

地域の保健師や看護師、出雲市や県立大学と協力して、身近なところで健康相談ができる体制をつくりまします。集会所に血圧計など自分で測定できる医療機器を置いて、健康についての関心を高め、予防や早期治療につなげまします。

## 病気になったり、介護が必要になったりしたら…

生活バスの利便性向上のためにダイヤやルートの見直しを行います。デマンドタクシーなど生活交通について伊野独自のシステムを検討まします。介護が必要な人とその家族が相談できる窓口が必要です。  
そして、市や病院、福祉施設、在宅とつなげてもらって切れ目のない支援を受けられるまちをつくらなければなりません。

## 最期まで現役

経験や知識、技能、人脈が豊富な高齢者のみなさんは地域の宝です。高齢のみなさんの力を発揮できる場をつくり、学ぶ喜びや生きがいを生み出まします。

## 緊急時対応

一人暮らし、二人暮らしのお年寄りの安否確認や相談にのるしくみを整えなければなりません。災害など緊急時に対応できる近所関係をつくりまします。FR隊員も増やまします。

近年、自然災害が多発する日本。日頃から防災について考えましょう。家族で話し合うことはもちろん、普段から地域の人と交流を持っていざという時助け合えるようにしましょう。



人と人が交流を深めることでつながりができ、出会いがあり、笑顔が生まれる。交流によって心が豊かになり、安心感も生まれ、伊野地区に住むことに満足と幸福感が生まれる…。そんな伊野をめざしましょう。



## 住民の命と安全を守る！

### 伊野のいま

地すべり地帯が多いので土砂災害対策は重要な課題です。高齢化が進むので、高齢者の命と安全を守るしくみをつくらないといけません。

災害など緊急事態に対応する力を高める方法も考えないといけません。

### 将来、伊野がより住みやすいまちになるために…

まずは考え方から変えていきましょう。自分たちの命は自分たちで守らなくてはなりません。家族内はもちろん、近所の人や町内会の中での交流を普段から行い、助け合いの輪をつくりましょう。

## 高齢者の生命・安全確保

災害時、特別な支援が必要な人たち一人ひとりについて、だれがどんな支援するのかをはっきりさせる個別の計画をつくりまます。緊急事態が起きたときは、近所の力や町内の力が大事です。ふだんから、おたがいさまの関係をつくる努力をしましょう。

## 土砂災害対策

災害対策本部を強化します。土砂災害対応マニュアルを新しくします。地すべりや落石が起きやすい場所、危険なため池をしるした「伊野危険マップ」をつくりまます。

## FR（ファーストレスポonder）隊の存続

救急車が到着するまでの間、人工呼吸をしたり救急車の誘導をしたりするのが伊野FR隊です。普及活動を行い隊員を増やすことが必要です。

## 交通安全

道路を広げたり、歩道をつくったりするインフラ整備を進めます。また、危ない場所をしるした「伊野危険マップ」をつくりまます。

## 原子力災害対応

島根原発から約10kmの伊野。原発についての学習や避難訓練を県・市と連携して実施します。避難先となっている大社町荒木地区との交流を続けます。



## みんな笑顔でつながる、次世代につなげる交流

### 伊野のいま

伊野いちや国際ワークキャンプ、トレイル・ランなどを通して他地域との交流がさかんになっています。しかし、イベントを運営する人、参加する人が固定化する傾向が出ています。これから、近所同士・住民同士のつながりも弱くなるおそれがあります。まちづくりの力を高めるために、地区内の交流を深めることがとても重要です。

### 将来、伊野がより住みやすいまちになるために…

まずは地区内の交流を重点的にアクションを展開していきます。地区内での交流を行っていくことで、出会いやつながりが生まれます。そうすると、自然と笑顔が増え、伊野に住む満足感や幸福感につながっていくでしょう。みんなで考え、行動し、楽しむ、伊野地区住民全員参加型のまちづくりを行っていきましょう！

## 地区内交流の活性化

子どもから大人へと、つながりが引き継がれる交流サイクルをつくりまます。

## 交流の見える化

個人や団体の交流活動が見える化することで、全体を把握し、参加意欲を高めます。

## 地区外交流の活性化

外部との交流によって、新しい発想、新しい活動を生み、伊野の未来につなげまます。

### こんなことがしたい！

- ・お嫁さん、お婿さん交流会
- ・交流なんでも相談窓口を開設
- ・空家を使った大人の隠れ家を作りたい
- ・保護者の交流イベント
- ・ツリーハウスを作り、森に憩いの場を作りたい
- ・ダンディーの夜会
- ・地区外に住む伊野出身者との交流



## ヒト・モノ・コトがつながるコミュニティ

### 伊野のいま

伊野地区の情報の多くは紙や放送、あるいは町内会などの会議を通じて提供されており、情報が届く範囲や精度に制限があります。必要な情報を、必要な人に、必要なタイミングで提供するためには、手軽さ、迅速さが必要です。その手段としてインターネットを活用する必要性が、伊野地区でも高まっています。

### 将来、伊野がより住みやすいまちになるために…

まずは情報発信のきっかけとして、SNS から始めます。  
SNSならたくさんの方が楽しみながら情報公開、共有できるはず。そのための仕組みとして、情報インフラの整備と共有ネットワークの構築を行います。

## SNS を通して、人と情報をつなぐ

### 1 教育やイベントなどの情報を簡単に入手できる伊野

伊野公式 SNS を使って、住民が欲しい情報を欲しいときに入手できるようにします。

### 2 SNS を使って販売促進などにつなげることができる伊野

SNS 勉強会を開催します。商品情報の発信をお手伝いします。

### 3 災害や交通情報を素早く入手できる伊野

伊野の災害情報、通行止めなど、命や安全に関わる情報を発信できるようにします。

### 4 困りごとを SNS を使って解決できる伊野

「誰かの手助けがほしい」と困っている人と「こんなことならお手伝いができます」という人がマッチングできるサイトを立ち上げ、住民同士が支え合う伊野をつくります。

## 情報インフラの整備と共有ネットワークの構築

### 情報インフラの整備

- Instagram、Twitter、Facebook など、多くのチャンネルで情報発信できるよう、アカウントを作成。
- 情報を発信するときのルールや、ガイドラインを作成

### 情報収集元の調査

どんな人がどんな情報をほしいと思っているのか、  
どんな人がどんな情報をどのように発信したいのか  
調査します

## 若者目線からつなげよう

### 伊野のいま

小学生はさまざまな場面で地域の活動に参加することが多いですが、中学生や高校生は部活などで忙しくなり、地域との関わりが薄くなっています。

中学生や高校生に聞いてみると、「部活などで忙しい」という理由の他に、「1人では行事に参加しづらい」という声もあり、本当は伊野地区の行事に参加したい人が多いのではないかと考えました。

私たち学生グループが考える現在の伊野の現状は、

- ・若者の就職先が県外や遠い所の割合が高くなっている
- ・公園など遊び場が極端に少ない
- ・同年代や年が近い人が行事にあまり参加してないため行っても話にくい
- ・行事も自分からしたいというよりもやらされている感じがする。



この状態が変わらなければ、若者は伊野からどんどん外へ出ていき、地域の行事に参加する人も減り、行事を行うこと自体が難しくなっていくでしょう…。

### 将来、伊野がより住みやすいまちになるために…

学生グループでは、まず地域との関わりが薄くなっている中学生や高校生が、地域行事に参加しやすい環境を整えることから始めます。

そのためにまず、「いの青年団」を作ります。青年団をつくることで、自分の出たい行事や都合のつく時に参加できる行事を早く知ることができ、多くの若者が参加しやすい環境が整うと考えています。

## 中学生から20歳まで任意で入れる「いの青年団」の結成

### 1 青年団の LINE グループをつくり、情報を共有します！

大学生などが中心となって地区の行事や催し物の情報をコミセンなどから聞き、青年団に入った人には青年団の LINE などのグループに入ってもらい情報を共有します。

### 2 伊野地区のイベントのお手伝い！やがて自分たちの企画

結成から5・6年程度は地域のお手伝いやイベントをサポートしていき、徐々に文化祭や夏祭りの場面で出し物を企画します。10年後には青年団で企画した行事を実行します。

伊野地区の未来を変えるのは私たち。

10年後も20年後も伊野地区が安心して楽しい場所であるため、  
一人ひとりがこの町のことを考えていきましょう。



[発行 / お問い合わせ]

出雲市伊野地区自治協会（伊野の未来を創る戦略会議） 〒691-0072 島根県出雲市野郷町 492-5 TEL 0853-69-1526  
2020年3月発行